

開講科目名 / Course	国際看護学演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 後期	
開講区分 / semester offered	後期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	桑野 紀子	
担当教員名 / Instructor	桑野 紀子、丸山 加菜	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
科目の目的と概要	講義で学んだ知識を実践に結びつけて理解を深めることを目的とし、「多様な文化社会的背景をもつ訪日・在留外国人の看護」、「海外に渡航する日本人の健康支援」について課題演習を行う。また、(1)世界の保健医療の課題について複眼的な視点を得ること、(2)国際機関ホームページ等を情報源として自ら調べ分析することを目的とし、或る国/集団の健康問題および対策について学ぶ。併せて、開発途上国における貧困援助の在り方について考察する。	
到達目標	1. 自分と異なる社会・文化・言語背景を持つ対象者の看護に必要な視点や配慮について説明できる。 2. 海外に渡航・在住する日本人の健康支援について、看護の役割と具体的支援方法を説明できる。 3. 国際機関の統計情報等をもとに或る国/集団の健康問題と対策について調べ、説明することができる。	
DPとの対応	2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力	
授業計画	01-02. 多様な文化・社会・言語背景をもつ在留外国人・訪日外国人の看護の実際 03-04. 在留外国人の看護：事例展開 グループワーク 05-06. 海外に渡航する日本人の健康支援：事例展開 グループワーク 07-08. グローバル産業と人々の健康への影響：事例展開 個人/グループワーク 09. 貧困援助について考える 10. 或る国/集団の健康課題と対策：Health issues and strategies of a nation/population group グループワークのオリエンテーション 11-13. グループワーク 14. 成果報告会 15. 或る国/集団の健康課題：Health issues of a nation/population group 個人演習	
その他の授業の工夫	・事例展開ではグループディスカッションを通して複眼的な視点を持つことができる。 ・世界の保健医療に関して英語で情報収集する作業を通じ、看護に役立つ英語力の向上が期待できる。	
時間外学修	演習で英語の資料を使用する際は、内容理解のため分からない単語・用語等を調べる。	
評価方法と評価割合	数回の演習テーマに関する課題レポートの合計：40% グループワーク/ディスカッション参加状況、報告会発表内容から総合的に評価：60%	
テキスト	看護テキスト NICE 国際看護 国際社会の中で看護の力を発揮するために(南江堂)	
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1](医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3](医学書院)	
履修する上で必要な要件		
その他	グループワークでは国際機関のホームページの情報を適宜活用する。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	桑野紀子：病院の看護師、助産師、保健師、海外教育機関との国際交流活動 丸山加菜：病院の看護師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院の看護師、助産師、青年海外協力隊、海外でのNGO活動
実務経験をいかした教育内容	国内外での看護実践や国際交流活動に関する経験をふまえ、グローバル社会における看護実践や求められる能力について学生が自ら学べるよう、各回の演習を組み立てる。	